

子宮頸がんで 子宮や命を失わないように

～検診の精度向上を目指して始まった「鹿児島スタディ」～

ヒトパピローマウイルス（HPV）感染が主な原因といわれる「子宮頸がん」。国は5大がん検診の二つ「子宮頸がん検診」に、昨年度新たに「HPV検査」の導入を推奨した。その実施に向けてよりよい導入法を検証する大規模臨床試験「鹿児島スタディ」に取り組まれている鹿児島大学産科婦人科の小林裕明教授に、検査の意義や同スタディが目指すものについてお聞きした。

若年化が著しい子宮頸がん 罹患率や死亡率が高い九州

全国の子宮頸がんの診断数は約1万7百例、死亡数は約3千人※1で、しかも罹患は30代から、死亡は30代後半から急激に増加し年々若年化しています。全国的にみると九州や北海道・東北は死亡率が高く※2、鹿児島県は2021（令和3）年の罹患率が全国ワースト1位です。その背景の一つは、子宮頸がんワクチン接種率の低迷だと考えられます。

子宮頸がんは、死亡数は約3千人ですが、落命しなくても手術で子宮を失う方や放射線や抗がん剤治療で生活の質（QOL）が低下する方が多く、少産少子化の現代において大きな社会問題です。

前がん病変など 早期発見につながる「HPV検査」

HPVの多くは免疫で排除されますが、感染が持続した例の一部に子宮頸がんやその前がん病変が発生すると考えられます。HPVには150種以上の型があり、特に発がん性の高い型が十数種類あります。欧米では16、18型が約70%を占めるのに対し、日本は約50%で、52、58、33、31型など他の型も多いのが特徴です。

従来の子宮頸がん検診は20歳以上に子宮頸部細胞診を行い、異常例にはコルポスコピー（腔拡大鏡）診土組織生検が精密検査として行われています。しかし欧米諸国では既にHPV検査を細胞診に先んじて行うことが普及しているため、国は昨年4月、子宮がん検診にHPV検査を加えることを推奨。HPVの検査対象を30歳以上（20歳以上30歳未満は細胞診のみ）とし、各自治体に今後数年内の導入を指示しています。

HPV検査をしても受診者に追加の手間はありません。子宮頸部から細胞を擦り取るのは同じですが、スライドガラスに塗抹する従来の細胞診と違い、特殊な保存液に細胞を混和し液状化細胞診検体とします。この検体からHPV検査を行っても、その残液で従来の細胞診が実施できます。HPV陰性例では次回検診間隔を5年後と延長できるだけでなく、陽性例には細胞診を追加することで、従来の細胞診以上に正確な診断へ導けます。

HPV検査の有効利用を目指す 大規模臨床試験「鹿児島スタディ」

鹿児島県は子宮頸がんが多いため、前々から液状化細胞診の導入に取り組み、国のHPV検査導入を見越して各関係機関と準備を進めてきました。

そして今年度から2～3年計画で開始したのが「鹿児島スタディ」です。これは鹿児島市内の指定子宮頸がん検診機関で細胞診を受ける30～65歳の中から研究協力者3万人を募り、検査データを解析し将来のHPV検査導入につなげる大規模臨床試験です（※3）。この試験で使用するH

PV検査はHPVの型を9種類に分け、発がんリスク（高・中・低）を分類できます。細胞診では陰性でもHPV検査が陽性である例は多々あり、特に高リスクHPVの場合はコルポスコピー診土組織生検を行います。両検査の併用により前がん病変の発見精度が向上しますし、すでに細胞診は正常であった方が本試験を希望したおかげで、浸潤がんが見つかった例も生じています。

この鹿児島スタディの結果をもとに、鹿児島県では発がんリスク別分類が可能なHPV検査を最善の形で導入し、より良質の新検診制度を県内で同時に開始することを目指します。今までアジア人を対象としたこれほどの大規模スタディはなく、国を超えた大きな研究成果になると思っています。

予防の両輪は定期がん検診とワクチン接種 世代に応じた対策を

子宮頸がんの予防策は、①定期検診（HPV検査を先行する細胞診）と②子宮頸がんワクチン接種です。ワクチンに関しては従来の4価より9価の方が予防効果が高く、現在、日本産科婦人科学会では他の医療団体とともに、男児への9価ワクチン定期接種を国に要望しています。

鹿児島県の場合、子宮頸がん検診の受診率は国内平均レベルですが、20代の受診率が非常に低いです。ワクチンに関しては定期もキャッチアップ接種率もまだまだ低い状態です。他県と比べると症状が出て（進行して）から受診される方が多い印象ですので、気になる症状があれば検診を待たずに早めに産婦人科に相談してください。

私は「10代にワクチン、20代から細胞診、30代からHPV検査」を子宮頸がん予防の合言葉としています。鹿児島県の子宮頸がん検診をより良いものにするために、ぜひ鹿児島スタディに参加してください。鹿児島県から子宮頸がんで悲しむ女性がいなくなる未来を願っています。（談）

HPV検査研究への
協力のお願い
詳細は動画で確認↓



※1：がん情報サービス、最新がん統計
診断数2021年、死亡数2023年
※2：都道府県別・年齢調整死亡率
10万人当たり、2021年
※3：有償、検査費用1000円
（通常は4～8000円）

鹿児島大学医学部産科婦人科学教室 教授
同 婦人科がん先端医療学講座 教授
日本産科婦人科口手術学会 理事長

小林 裕明氏

＜参考・出典など＞
●小林先生 各種講演スライド
●がん情報サービス：
最新がん統計・子宮頸がん（解説）
●日本ベクトン・ディッキンソン（株）HP
●日本産科婦人科学会雑誌62巻9号
●南日本新聞：2025年3・16、4・9